

令和6年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【植水小】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	単元内においては、学習の基本を理解し、習得することができるが、学習の定着が不十分なため、授業の内外において、躓きやすい問題を各学年で共有して、重点的に取り組んでいく。取り組んだ内容は、次年度の学習状況調査の際に結果を比較して、再度検討していく。	
思考・判断・表現	全職員で個別最適な学びを学校全体で推進していくために、児童一人ひとりが、学習に目標をもって取り組み、自己の取り組み方について振り返りを行って次の学習に理解をつなげられる授業づくりを行っていく。また、協働的な学びについても意図をもって行い、児童への多面的な気づきや理解の深まりを促していく。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 全体的に課題が多いが、特に漢字基礎的な計算の定着に課題が見られた。繰り返して漢字や計算問題に取り組むことが必要。</p> <p><指導上の課題> 基礎・基本の定着のため、昨年度の結果から分かる、本校児童の学力を高めるワークシートの作成と、国語・算数タイムでの活用。</p>	⇒ 校内研修と連携して組織的に運営し、児童が短い時間の中でも基礎・基本の定着につながる、国語・算数タイムでの指導内容の検討を行い、実施する。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> さいたま市学習状況調査では、複数の学年で資料の読み取りや自分の考えをもつ問題に対して、課題が見られた。</p> <p><指導上の課題> 授業における、自分の考えをもち、その根拠となる部分の説明を行う指導の工夫が必要。</p>	⇒ 一斉指導を行う時間と「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を意識して指導を行う時間の意識的な使い分けをしていく。「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業を行う際、自分で考えをもつ時間、相手に考えを伝える時間、全体で共有する時間の共通理解を教員と児童が図るその結果、子どもたちは、自分の考えを自信をもって発信できるよう、繰り返し指導していく。

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	毎週月曜日を「国語・算数タイム」とし、全学級で国語と算数の基礎学力向上のための時間を確保し、行うことができた。
思考・判断・表現	B	「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を意識して学校全体で取り組んだ。R6年度さいたま市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答に平均は73%であった。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか」の質問項目では平均86%だった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語:既習漢字の定着に課題がある。また、主語と述語の関係をつかえることが苦手であり、述語の直前の文字を主語と捉えている児童が多かった。普段から漢字の反復学習や文章構造を意識した、日常的な取り組みが必要である。算数:除数が小数のわり算の定着に課題がある。また、円グラフや折れ線グラフの目盛りを正確に読み取ったり、必要な箇所を見つけたりと課題がある。円グラフの読み取りで1%の誤差で不正解になる児童が17%いた。目盛りの数え方がきちんと定着していないことの現れであり、基礎・基本が定着するよう、当該学年だけでなく過去の学年に遡って復習する取り組みが必要である。	
思考・判断・表現	国語:図を用いて、書きたいことの情報の関連付けや、整理をすることができる。一方、物語文の文章を読み、描写から登場人物の心情をつかえることに課題がある。また、心情描写や、表現の工夫に注目して物語を読むことに慣れていない傾向にある。読書活動の後に、自分なりの視点をもって相手に感想を伝える取り組みが必要である。算数:図形から必要な要素を取り出し、活用する力が弱い。また、図形の特徴をつかえ、説明することに課題がある。さらに、グラフを読み取り、そこから必要な情報を活用するところにも課題がある。公式や定義を覚えるだけでなく、生活のどのようなところに生かされているかという、自分の経験と結び付ける活動も大切にしたい。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「主語と述語」において全学年で課題がみられた。また、算数では「小数の減法の問題」で全学年がさいたま市平均を下回ってしまった。そのために、各学年での躓きやすい問題を共有し、授業の内容外であっても児童に質問をしたり、朝学習で取り組ませたり、宿題でワークシートを用意したりと、単元の学習内外に関わらず、全学年で継続的に取り組んでいく。	
思考・判断・表現	国語では、「話す・聞く」の領域に全学年課題が見られた。話し合いの目的を理解させた上で、自分の考えをしっかりと持たせて話し合いに参加をさせたり、友達の話したい内容の中心を捉えて質問をしたり、感想を述べたりさせる指導や支援を行う。算数では題意を把握させるために問題を区切って内容を整理したり、算数的活動を取り入れて題意を実感をもたせたりする。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	国語・算数タイムを用いて、国語では文章を書いて相手に伝える活動、算数では計算などの基礎的な力を定着させるための活動を取り入れた。	変更なし
思考・判断・表現	C	学校課題研修では、「個別最適な学び」を取り入れ、児童にとって学びやすい環境を整えることを目標としているが、指導方法の共通理解が進まず、取組がバラバラになってしまっている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)